

事務事業名		環境未来都市推進事業		☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間		予算科目				
	施策名	22 地域経済を支える鉱工業の振興				会計	款	項	目	事業
	基本事業名	02 新事業の創出		☐ 単年度のみ	01	02	01	06	12	
根拠法令		☒ 単年度繰返 (開始 23 年度～)								
所属	部課名	環境未来都市推進室		☐ 期間限定複数年度						
	課長名	新沼 徹		【計画期間】						
	係名		電話 0192-27-3111	年度 ～ 年度						
	担当者	佐藤 貴裕	内線 229	※全体計画欄の総投入量を記入						
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
平成23年10月、気仙2市1町と一般社団法人東日本未来都市研究会が、国の「環境未来都市」に「気仙広域環境未来都市」を共同提案。同年12月、環境未来都市に選定。平成24年2月、研究会に参画する企業や有識者、気仙2市1町で「気仙広域環境未来都市推進共同事業体」を設立。共同事業体は、気仙広域環境未来都市計画に登載された各種事業の推進母体で、事務局は東日本未来都市研究会事務局が兼ねる。同年5月、蓄電設備付帯メガソーラー発電所建設をはじめ、5つのプロジェクトからなる気仙広域環境未来都市計画が国から承認された。各プロジェクトでは、コーディネーターにより、内閣府の環境未来都市先導的モデル事業費補助金などを活用しながら、太陽光発電所建設候補地の調査やコンパクトシティの整備に向けた調査検討、環境共生型木造住宅モデルの構築、医療・介護等の連携協議会の運営などプロジェクト毎に取組が進められている。 当市は、共同事業体の一員として、各プロジェクトのコーディネーター及び市内の関係課等と連携しながら計画推進に取り組んでいる。						総投入量 (千円)	事業費 内訳	国庫支出金		
								都道府県支出金		
								地方債		
								その他		
								一般財源		
								事業費計(A)	0	
								人件費		
正規職員従事人数										
延べ業務時間										
人件費計(B)	0									
トータルコスト(A)+(B)		0								

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		名称	単位
共同事業体への負担金の支出 庁内関係課、関係市町、関係機関団体及び東日本未来都市研究会との協議、調整		ア 共同事業体負担金額	千円
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ 関係市町及び研究会等との会議開催数	回
フォーラム等の開催 庁内関係課、関係市町、関係機関団体、東日本未来都市研究会及び地元企業等との協議、調整		ウ フォーラム等開催数	回
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
気仙広域環境未来都市推進共同事業体 庁内関係課等 フォーラム等参加者		名称	単位
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		カ 共同事業体参画企業・団体数	者
気仙広域環境未来都市計画を着実に推進する。		キ 庁内関係課等の数	課
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		ク フォーラム等参加数	人
多様な連携・交流が行われる。 市内企業が新分野に事業を展開する。		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	単位
		サ プロジェクトチームの具体的な取組件数	件
		シ	
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

	年度	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)
投入量	事業費	国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	19,445	18,266	11,344	5,856	18,230
	人件費	事業費計(A)	千円	19,445	18,266	11,344	5,856	18,230
		正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2
		延べ業務時間	時間	480	2,400	2,500	2,400	2,200
		人件費計(B)	千円	1,920	9,600	10,000	9,600	8,800
		トータルコスト(A)+(B)	千円	21,365	27,866	21,344	15,456	27,030
⑤活動指標	ア	千円	19,445	18,266	13,144	2,131	0	0
	イ	回	7	8	70	50	50	50
	ウ	回						1
⑥対象指標	カ	者	14	18	20	20	20	20
	キ	課	5	19	19	19	19	19
	ク	人						27
⑦成果指標	サ	件	0	7	7	7	7	7
	シ							
	ス							

事務事業ID	1530	事務事業名	環境未来都市推進事業
--------	------	-------	------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
平成23年7月、早期復興に向け、今後の広域連携について気仙2市1町の首長で話し合った際、国の「新成長戦略～『元気な日本』復活のシナリオ～」（平成22年6月18日閣議決定）における「21世紀の日本の復活に向けた21の国家戦略プロジェクト」の一つに位置づけられた「環境未来都市」構想について、一般社団法人東日本未来都市研究会から受けていた提案を協議し、共同で取り組むこととした。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
平成24年7月に、太陽光をはじめとする再生可能エネルギー発電の普及を促す固定価格買取制度がスタートし、全国各地で多くの発電事業計画が進められ、市内においてもメガソーラー発電所の建設が進められており、再生可能エネルギーに対する市民の関心も高まっている。 また、気仙広域環境未来都市医療・介護・保健・福祉連携協議会で検討を進めてきた事項の事業化にあたり、体制強化と社会的信頼性の向上を図るため、平成27年4月に「一般社団法人未来かなえ機構」へと移行し、未来かなえネット(地域医療・介護ネットワークシステム)の運用や地域介護力の強化を図る取組を進めている。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
平成24年2月に気仙広域環境未来都市推進共同事業体を設立以降、気仙地域の企業・団体・住民を対象とした説明会の開催、報道などを通じて、徐々に市民や市内企業の間にも、再生可能エネルギーの活用について関心が高まってきていると感じる。再生可能エネルギーの活用について市議会の関心が高く、一般質問で気仙広域環境未来都市計画の進捗状況や今後の対応を問われることがある。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒
	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	気仙広域環境未来都市計画の着実な推進は、エネルギー産業をはじめ、地域に新たな産業を創出するとともに、産業間の多様な連携・交流を促すものであり、政策体系に結びつく。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒
	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	気仙広域環境未来都市推進共同事業体で取り組む事業は、地産地消型エネルギー社会の構築、少子高齢化社会に対応したコンパクトシティの整備、さらには、エネルギー産業の振興、医療・介護・保健・福祉の連携、交通・物流の強化など、社会インフラの進展につながるものであり、公益性が高い。また、復興計画との整合を図る必要があり、公共が関与するには十分な妥当性がある。	
有効性 評価	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒
	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	気仙広域環境未来都市推進共同事業体の一員として、負担金を支出して、計画の推進を促すとともに、環境未来都市推進室職員が庁内の関係課等と情報を共有し、連携して環境未来都市計画を進めるものであり、対象、意図ともに適切である。	
	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒
	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	一般社団法人東日本未来都市研究会に参画する企業の技術協力や企業間の連携を働きかけることにより、成果の向上余地があるものと考え。	
有効性 評価	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒
	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	当事務を廃止すると、気仙広域環境未来都市推進共同事業体におけるプロジェクトの進捗に影響を及ぼすため、廃止も休止もできない。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	気仙広域環境未来都市計画の推進に係る事業は、当事業のみ。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】⇒	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】⇒
	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	気仙広域環境未来都市計画の見直しなど、可能な限り、共同事業体事務局である東日本未来都市研究会事務局と協議しながら事業費全体の縮減を図り、結果として共同事業体負担金を減額することができる余地はある。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】⇒	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】⇒
	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	5つのプロジェクトチームによる調査・検討の結果を踏まえ、事業化に向け、今後、庁内他課の協力を求めることで人件費削減を図る余地がある。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒
	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	気仙広域環境未来都市計画は、特定の業者や住民に利益をもたらすものではなく、広く公益に資するものである。	

事務事業ID	1530	事務事業名	環境未来都市推進事業
--------	------	-------	------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 復興計画と整合を図りながら、庁内関係課等との連携を密し、本事業計画を実施していく必要がある。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 庁内関係課、関係市町、東日本未来都市研究会及び地元企業等と協議、調整を進め気仙広域環境未来都市計画を着実に推進する。 また、気仙広域環境未来都市計画の事業内容の見直しや負担金の精査など、事務局と協議しながら事業費の縮減を図る。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	●			維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上	●																					
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 																							

4 事務事業の2次評価結果

(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	企画政策部企画調整課長
	新沼 徹

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 地元関連企業等と行政との連携を密にする中で、一層の成果向上が期待できる。 個々の具体的な取組の詳細について確認・精査するとともに、取組相互の連携を図ることなどにより、事業費削減の余地がある。										
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 気仙広域環境未来都市計画の計画期間終了(平成28年度)を見据えた取組(進捗)状況の確認。 共同事業体の運営委員会(気仙地域2市1町の首長、プロジェクトマネージャーで構成)での調整。 関係課等との情報共有。 地元企業の参画促進に向けた取組の強化。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	●			維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上	●																					
	維持			×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
